



瑞山会会報

No.42

編集発行
名古屋市立大学
経済学部同窓会
瑞山会編集部

<http://www.asahi-net.or.jp/~IW3K-KJM/zuizan.html>

平成17年12月10日発行

名古屋市立大学の法人化と 瑞山会会員の皆様へのお願い

大学院経済学研究科教授（名古屋市立大学前副学長） 内藤 能房

瑞山会会員諸兄(姉)、それぞれの分野でご活躍のことと思います。第1期生はたいていの人が今年60歳、定年の年ですね。私も本学に赴任してすでに28年が経ち、そろそろ終りが近づいています。

この間、大学を取り巻く社会環境は劇的に変化してきており、とりわけ近年の18歳人口の減少といわれる「大綱化」という名のもとでの大学改革の自由化によって、大学間競争は激化し、大学は確実に淘汰の時代に突入しています。他方、グローバル化の進展に伴う国際競争の熾烈化は知的財産への注目を高め、知的資産の母体としての大学に対する社会の期待や要請も確実に変容してきています。国公立大学の法人化もこの社会情勢の変化の然らしむるところなのでしょう。

こうしたなか、すでに新聞等でご存知の方もおられると思いますが、本学も来年4月から名古屋市の一部局から独立して、法人格をもつことになり、公立大学法人名古屋市立大学となるべく、目下鋭意準備中です。私立大学はもとより学校法人であり、国立大学も平成16年に法人化しているので、公立大学のみが地方公務員法で手足をしばられたままでは、対等に競争できないのではないかという受身的理由からとは言え、大学側から名古屋市に主体的に申し出た法人化ですので、是非成功させなければならないと考えています。法人化の方向性を示した「名古屋市立大学将来構想」（平成15年11月）を取り纏めた者として、なおさらその感を強くもっています。

法人化した名古屋市立大学の運営は、大学収入の大宗を占める運営費交付金を支出する名古屋市（名古屋市民）はもちろん、学生・院生、その保護者の方々、大学の卒業生のみならず、そして経済界・産業界はじめその他さまざまな外部の方々のご支援、ご理解なしには円滑に進められません。とりわけ、同窓会からのご後援は力強いものです。近隣の大学でも同窓会の全学一本化など大学と同窓会の関係強化が行われています。瑞山会からはこれまでも卒業生の表彰や「学校内でのOB・OG訪問」等就職支援の面でご尽力いただいているほか、今後も学生への「キャリア教育」向け卒業生非常勤講師派遣など教育面への協力もご承諾いただいております。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

以上のような訳で、OB・OGのみなさんの母校名古屋市立大学に対する今まで以上の関心とご支援をお願いする次第です。もとより、大学側としても、卒業生の皆さんへの継続的な情報提供ならびに経済学部・研究科教員と瑞山会との更なる連携強化に努力する所存です。なお、私は平成13年5月以来兼務してきました副学長職を和田義郎学長の急逝に伴う任期満了により9月に退任しました。ここに、和田先生のご冥福をお祈りするとともに、瑞山会会員各位の益々のご健勝とご発展を祈念して、結びと致します。

講師募集のご案内

母校 名古屋市立大学経済学部では、平成19年4月より我々瑞山会OBを社会人講師として迎え、半年間の授業を行う予定があります。半年間、13時限を1時限ずつ13人で交代し、ご自分の経験、知識を、学生達に講義する予定です。選考は瑞山会理事会が行います。

どうぞ多数応募下さいますようお願い申し上げます。詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先 前田会計事務所 前田勝昭 (052) 332-6086

名古屋市立大学は、キャリア教育の充実や就職率のアップなどを社会的に要請されています。経済学部教授会は、十全なキャリア教育には、瑞山会の豊富な経験知やネットワークとの連携が不可欠と考えています。後輩達のために、是非ご支援頂ければ幸いです。

名古屋市立大学大学院経済学研究科 向井清史

「平成17年度瑞山会総会 開催される」

平成17年度瑞山会総会は、9月17日（土）午後4時から名古屋・名鉄グランドホテルにおいて開催されました。初めに全員で会員物故者へ黙祷が捧げられた後、議事は議長・壁谷禎敏氏（1期生）、書記・近藤常夫氏（1期生）、八木得三氏（5期生）の進行で進められました。まず前田瑞山会会長からこれまでの同窓会活動と次年度の活動計画が報告され、その他瑞山会会則第2章会員の項、第5条の（4）名誉会員に「及び団体」の語句を追加する提案が合わせてされました。続いて会計部三宅政臣氏（1期生）より決算報告がなされました。さらに監事松原隆二氏（4期生）の監査報告がなされました。最後に質疑応答の後、出席者全員の拍手によって全議題が承認されました。



続く特別講演会は渡辺斉氏（名古屋学院大学助教授、元朝日新聞論説委員）による「危機の惑星-水問題から世界を考える」という演目で約一時間行われました。5時半よりは懇親会に移り、OB約50名の参加のほか、内藤経済学部教授、安藤経済学部教授、向井経済学部教授、西田愛工大教授、本多医学部



内藤教授（左）、剣陵会西村氏



懇親会場の様子

同窓会会長、青山医学部名誉教授、榊原薬学部同窓会会長、西村剣陵会副会長ら来賓のご列席のもと盛大に行われました。

今回より準会員である現役学生にも参加を呼びかけたところ、田中ゼミより1名出席していただきました。会の途中に急遽OBの前で現在の市大生の様子のお話しをお願いしました。その他OB同士の呼びかけの結果、今回は特に1期生の参加者が多く、会場内で話しの輪がいくつもできていました。今後は更に同窓会、学部、現役学生との交流が総会・懇親会を通して深まるよう進んでいくことを期待しています。

——＜理事会便り＞——

平成16年度卒業生の中から瑞山会賞に選ばれたのは以下のOB・OGの方々です。（五十音順、敬称略）

木村 裕美（前田ゼミ） 佐野 主学+（前田ゼミ） 名和 真由美（岡田ゼミ）

林 有香（松村ゼミ） 松久 晃士*（村瀬ゼミ）

選考基準は、学部成績優秀者の他、*印は卒論優秀者、+印は特記すべき活動者（スポーツ）で受賞しました。表彰及び授与式は平成17年3月24日の卒業謝恩会にて前田瑞山会会長より表彰状と記念品が贈呈されました。おめでとうございます。

●平成16年度決算報告

第27期 貸借対照表

(平成17年3月31日現在)

(単位 円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
普通預金・現金	12,148,476	名簿発行引当金	1,000,000
りそなMMF	5,978,401		
貸付信託	6,560,000	運営基金積立金	25,686,761
金銭信託	1,999,884	(うち当期剰余金)	(796,537)
合計	26,686,761	合計	26,686,761

第27期 収支計算書

(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)

(収入の部) (単位 円)

勘定科目	予算額(A)	実績額(B)	差額(B)-(A)
会費収入			
(新入会費213名分)		4,260,000	0
各部預金利息	4,260,000	106	△894
運営基金利息	1,000	4,026	△974
名簿売上	5,000	20,000	20,000
補助金収入	0	0	0
収入計	0	4,284,132	18,132

(支出の部) (単位 円)

勘定科目	予算額(A)	実績額(B)	差額(B)-(A)
名簿追録発行費	50,000	0	△50,000
(注1) 名簿発行引当金	0	1,000,000	1,000,000
(注2) 会報発行費	1,000,000	639,644	△360,356
総会費	1,000,000	818,775	△181,225
事務費	300,000	226,382	△73,618
通信費	200,000	92,410	△107,590
事業運営費	950,000	610,384	△339,616
(注3) 予備費	766,000	100,000	△666,000
支出計	4,266,000	3,487,595	△778,405
当期剰余金	0	796,537	796,537
合計	4,266,000	4,284,132	18,132

(注1) 平成17年12月名簿発行に関わる同窓会負担予定額の1/2引当金計上

(注2) 本年より会報発行を1回にし、総会の案内を往復書で発行
その費用(379,758円)を総会費に計上している

(注3) 名市大公開シンポジウム協賛金を予備費より支出

●平成17年度予算案

第28期 収支計算書

(自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)

(収入の部) (単位 円)

勘定科目	予算額(A)	前年実績額(B)	差額(A)-(B)
会費収入			
(新入会費)	4,280,000	4,260,000	20,000
各部預金利息	1,000	106	894
運営基金利息	5,000	4,026	974
名簿売上	0	20,000	△20,000
補助金収入	0	0	0
収入計	4,286,000	4,284,132	1,868

(注) 新入会費・予算額は平成17年4月28日入金確認(214名)分

(支出の部) (単位 円)

勘定科目	予算額(A)	前年実績額(B)	差額(B)-(A)
名簿発行引当金	0	1,000,000	1,000,000
(注1) 名簿発行費用	1,000,000	0	△1,000,000
(注2) 会報発行費	800,000	639,644	△160,356
総会費	1,000,000	818,775	△181,225
事務費	290,000	226,382	△63,618
通信費	150,000	92,410	△57,590
(注3) 事業運営費	720,000	610,384	△109,616
予備費	326,000	100,000	△226,000
支出計	4,286,000	3,487,595	△798,405
当期剰余金	0	796,537	796,537
合計	4,286,000	4,284,132	△1,868

(注1) 平成17年12月名簿発行に関わる同窓会負担予定額の1/2計上

(注2) 会報1回発行費用 市大広報発送費用含む

(注3) 新支部補助金、OB表彰制度 等

2005年度役員名簿

理事

●会長

前田 勝昭 1期生(岡崎)

●副会長

多和田 眞 4期生(岡崎)

佐藤 克己 8期生(岡崎)

服部 篤典 18期生(安藤)

●庶務部長

伊藤 孝 6期生(山本)

●副庶務部長

渡辺 尚泰 3期生(柴田)

●庶務部

浅井 和良 1期生(静岡)

近藤 常夫 1期生(平田)

八木 得三 5期生(山本)

小笠原 幸生 6期生(中居)

荒深 美和子 9期生(木村)

倉地 弘美 14期生(松永)

木村 剛 17期生(辻)

吉田 和男 20期生(國村)

●編集部長

榊原 茂 1期生(松永)

●副編集部長

中村 英利 20期生(西田)

●編集部

伊藤 幸雄 5期生(妙見)

鈴木 正彦 7期生(芝原)

田中 喜夫 7期生(岡崎)

寺沢 賢治 11期生(牛嶋)

水野 誠 13期生(宮川)

松川 倫典 16期生(塩見)

湯浅 伸庸 18期生(安藤)

鈴木 正 19期生(星野)

石川 勇治 21期生(上村)

柴田 光晴 22期生(神山)

家田 嘉人 23期生(星野)

佐藤 哲也 24期生(宮川)

高山 浩之 26期生(國村)

若松 理恵 26期生(國村)

清水 綾子 30期生(多和田)

柚田 明子 30期生(安藤)

奥村 光輝 31期生(多和田)

西脇 桂 33期生(安藤)

時國 均 33期生(森田)

松尾 裕次 34期生(森田)

●事業部長

逸見 和弘 1期生(松永)

●副事業部長

杉浦 晴義 5期生(松永)

●事業部

都島 忠比古 3期生(山本)

浅岡 邦康 3期生(傍島)

木村 新作 5期生(岩橋)

村井 清 6期生(山本)

岡田 美津雄 10期生(中居)

村岡 範久 15期生(松井)

畔柳 一 19期生(星野)

石川 常彦 23期生(國村)

●名簿部長

中村 正治 5期生(木村)

●副名簿部長

橋本 光生 18期生(醍醐)

児島 完二 22期生(妙見)

●会計部長

三宅 政臣 1期生(一谷)

●副会計部長

児島 和世 22期生(國村)

監事

栗野 泰次 1期生(大山)

松原 隆二 4期生(中居)

【瑞山会総会 特別講演要旨】

『危機の惑星 - 水問題から世界を考える』

渡辺 斉 氏 (名古屋学院大学助教授) ・ ジャーナリズム論

この三月まで朝日新聞に在籍し、主に水問題とか地球環境の問題を論説委員時代は担当していた。私が歩いてきた現場を紹介しながら今この地球がどんな状態にあるのかいつまでお話しをしたい。

つい最近総選挙があったが、地球環境とかそういう問題は殆ど問題にならなかった。実は非常に大切な問題でありながら日常的には非常にマイナーな問題になっている。がしかし今地球は手をこまねいていたら大変なことになるとというのが私の危機感である。

先日来アメリカのハリケーンが報道されたが、中国とか各地でも大きな水害があった。一方ヨーロッパでは水害どころか大かんばつに苦しんでいる。個々にはいろんな理由があるのだが大きな意味では地球の気候がおかしくなってきたのではないか。

今まで近代治水で膨大なお金をかけてダムや堤防作りをやってきたが結局防いできていない。増えている理由のひとつは都市化で、みんなが田舎からどんどん出て来て都会に住むようになった。そこで被害にあうと一気に大きくなる。もうひとつは開発で、堤防とかダムとかそういった河川開発に頼って森林とか流域の遊水地とか、氾濫源というのが、そういうところを開発してきた。そういうツケが災害をもたらしている。

もうひとつ大きな理由は気候変動である。カンボジアのメコン川が昔に比べると水害が頻繁に起きるし規模が大きくなっている。チェコのプラハではブルタバ川があふれ2002年に中欧、チェコとかオーストリア、ドイツとか大水害になった。

つまりわれわれが少々の上事をしても自然にはかなわないというのがここ数十年の歴史的あゆみが示している。考え方を根本から変えなくては行けない。これらがひとつの水問題の大きな危機である。

非常に大きな皮肉だが、地球温暖化になると当たり前だが雨が增える。その雨が人間のコントロールできないものであるところに集中的に降る。したがって温暖化で全体に雨が增えているのにもかかわらず、地球は洪水と渇水が同時進行で起きている。

その典型が中国の黄河流域で、源流のザリン湖やオリン湖が温暖化によって蒸発が進んでどんどん枯れていく。それで黄河全体の水量が20%位減ってきている。その少なくなった水を皆んなが奪いあうように使っている。その中流の黄土高原が、過剰な放牧や過剰な耕作が行われることによって更に大地が荒れていく状況がある。つまり大地の荒廃は水の危機と表裏の関係である。

実はヒマラヤとかチベットはアジアの大河の源流にあたる。氷河が適度なりズムで溶けていくのは問題無いが、温暖化で一気に溶けると一時的には流量は増えるだろう。しかしやがて長年蓄えてきた氷河（貯金）を使い果たした後はまったく水源が無くなりそうすると急速に枯れだすだろう。

世界の全体像で水不足は、中国、インド、中央アジア、北アフリカ、メキシコ、南米の一部あと東ヨーロッパなど大体途上国である。水が無かったから先進国へ離陸できなかった。人口にすると大体20億人が水不足地帯に住んでいる。

アフリカの内戦問題はよく人種や宗教の問題といわれるが、砂漠化が進んで、水や土地を争い、対立が起きる。その対立が何かで内戦に発展する。しかしスーダンがナイル川の流域で、本来豊かであっていいところだ。国土は日本の七倍ほどもあり、ナイル川をうまく使えばもっと豊かになれる可能性のあるところである。

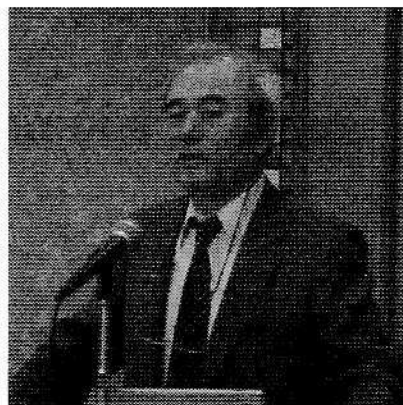
日本は島国なのであまり実感はないが、世界の多くの川は国際河川である。260位の川が国際河川で大体世界人口の半分近くがこれらの河川流域で暮らしている。そこで水紛争が出てくる。

その例がヨルダン川のあるイスラエルとパレスチナでおきている。イスラエルはダムを造って圧倒的な軍事力と経済力で水の多くを引っばっている。中東戦争では他国のダムを破壊することもやっている。ヨルダン川の水を共同利用すればいいと思うが、イスラエルは多くの水を使って繁栄しているので、アラブやパレスチナに分けることは出来ない。そういう事が紛争の根底にある。

水の三つ目の危機は汚染である。欧米では地下水を使うので地下が汚染されると即人体の影響がある。アメリカ、ニューヨーク州では、使われなくなったラプキナルという運河に化学薬品会社のごみを捨て、そこから漏れた有害物質ダイオキシンが川に流れ込んだ。その地下水を利用した住民に癌や流産が発生した。ドイツは環境国として非常に有名だが、旧東ドイツは処分場や基地などは相当いい加減な処理がされていて、有害物質が放棄されている。今政府は必死で環境浄化を行っている。一万箇所あるといわれ、その汚染浄化には1兆円を超す費用がかかるとみられている。

過去に巨大開発を進めてきた世界銀行の元副総裁だったウィリアム・コスブロー氏が「五つの処方箋」と言うものを出している。もっと伝統的な知恵を使ったほうがよい、自然の営みを大事にしなければ結局は地球環境は守れないという発想に立った提案である。その一つが湿地は浄化や治水に役立つので残していこうというものである。

古代から人間は水に対してもっと謙虚だったわけで水に対して畏敬の念を持っていた。それがあつた時から自分達が支配できるようになったと錯覚をした。そのツケが回って、今世界を大水害と大かんばつが覆っているということではないかと思う。



世界の河川 湖沼問題を歩く 渡辺 斉

水の警鐘

【参考著書】
『水の警鐘』
世界の河川・湖沼
問題を歩く
水曜社刊
ISBN: 4880651273
(2004年7月発行)

~~~~~「山の畑読書庵」 連載企画第五回~~~~~

『幸福の政治経済学』

ブルーノ・S・フライ&アイロス・スタッツァー著
佐和隆光監訳 ダイヤモンド社 2005年
ISBN 447821042X

今日、日本経済・社会の閉塞状況（と私は思わないが）において、日本がどこへ向かうか迷っている状態において、果たして経済学の役割は何か、あるいは経済学は役に立たないのではないかと考えているエコノミストたち、あるいはマスコミ関係者、又大学教授など多くのオピニオン・リーダーがいる。しかし、この本は、そんな混沌とした世の中にある種の具体的なこれからの国の経済的・政治的目標の一つを提示しているように思われる。すなわち、我々は何を目標にして生きているのか。それは、皆「幸福」になりたいと思っているのである。しかし、現代経済学にあるミクロ的抽象的な効用関数ではない、もっと具体的に、実証的な話が欲しいのである。この本は、その要望に応える一つの解決策を示しているように思われる。タイトルは一般に親しみやすいように「幸福の「政治経済学」」としているが、中身は「幸福のための計量経済学のアプローチ」なのである。さて、ここでの「幸福」の定義は、効用ではなく、主観的な生活に対する満足度であり、様々な具体的な指標を提示している。すなわち、①心理的・神経生理的指標②観察された社会的行動③非言語行動④聞き取り調査によって申告されたものである。例えば①仕事に関する満足度②物質面での生活の質③幸福な結婚とパートナーとの生活④余暇時間⑤健康である。しかし、著者たちはこれらのことが人々の大きな関心事には違いないが、しかしそれを支えている政治制度（特に、住民投票による市民の直接政治参加権と政府の分権化の程度）が、人々の幸福に体系的な影響を及ぼしていると考えている。此の点に関して、現在の日本人が根本的に忘れていないことではないのか、特に選挙に関する各政党の将来に対するビジョンの無さがこの本を熟読することによって判明するはずである。著者たちは、この幸福と所得とか、インフレとか、あるいは雇用など具体的な数値を使って示している。もちろん様々な幸福の数値的尺度は示しているが、彼らの本当のねらいは、幸福が現行の政治的条件に大きく依存をしているとして、様々な政治制度、例えば立憲民主制と、直接民主制と幸福との関係を詳しく実証的に述べている。特に、少ない直接民主制の国の例としてスイスを詳細に考察している。そこで、強調されているのは、所得とか失業などのマクロ変数ではなく、政治への参加と幸福が密接に関連しているということである。このことは、今の日本の若者の政治に全く無関心な、刹那的な人生の送り方に警鐘を鳴らすものである。その意味において、我々が究極的な目標とする「幸福」に、ここまで、計量経済学が接近するようになったかという驚きがある。とにかく、この本の出現によって、経済学は抽象的で、人々の役に立たないという経済学に対する、最近の冷笑に対する見返しができるものであると信じる。もちろん、この本は、数式など殆ど出てこない一般に読みやすくなっているが、その背景には膨大なデータによる多くの計算が行われていることを考えると著者がここで提唱している考え方を一般大衆に普及させたいという熱意が伝わってくる。とにかく、幸福に対する具体的で、実証的な新しいアプローチに、新しい経済学の一つを見る思いがする著作である。

（第5期生 大阪経済大学 経営情報学部教授 伊藤 幸雄）

~~~~~  
大学院経済学研究科人事

<平成17年4月1日採用>

|                |       |
|----------------|-------|
| ○助教授（日本経済経営専攻） | 河合 勝彦 |
| ○講師（経済政策分析専攻）  | 濱口 泰代 |
| ○講師（日本経済経営専攻）  | 板倉 健  |

<同年4月1日異動>

|                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| ○（昇）助教授（日本経済経営専攻） | 横山 和輝<br>（講師より） |
|-------------------|-----------------|

<同年9月30日退職>

|               |       |
|---------------|-------|
| ○教授（経済政策分析専攻） | 信國 眞載 |
|---------------|-------|

~~~~~  
訃報

次の会員の方が亡くなりました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

河合 憲明氏（S43、1期生牛嶋ゼミ、平成16年）
坂野 修氏（S44、2期生山本ゼミ、平成16年12月）
和田 義郎氏（名市大学長名誉会員、平成17年8月22日）

会員ご逝去に際しましては、あらかじめ庶務部へご連絡があれば「慶弔金品等支給基準」に依り、同窓会から生花一对と弔電をお送りさせていただきます。

瑞山会庶務部長 伊藤 孝（6期生） TEL052-931-5546

~~~~~  
●住所やお勤め先などの変更による  
瑞山会へのお届け方法について●

会員の皆さんが瑞山会に登録していただいた住所などに変更がございましたら出来るだけお知らせ下さるようお願いいたします。会報や同窓会からの送付物等をお届けできなくなる恐れがあります。

変更の仕方は以下の方法があります。

- 1) 会報に同封の返信葉書を使う。
- 2) FAXで同窓会事務局へ送る。  
TEL 052-332-6096  
前田会計事務所内瑞山会事務局 児島宛
- 3) 同窓会HP管理者宛にメールを送る。  
atstique@rr.ij4u.or.jp 服部宛

送付の際には電話番号やアドレスの間違いには気をつけて下さい。個人情報保護の観点からインターネット上で常時名簿・一覧などの個々の情報へ会員の方が直接アクセスすることは、コンピューターの持つ技術上の欠陥から安全性が確保出来ません。したがって同窓会では画面から直接データを操作する方法はとりません。上記のようなアナログ的手法で繁雑かもしれませんが、出来るだけ事故の無い方法で情報の収集を行っていく方針です。

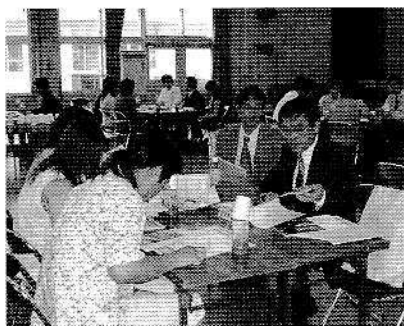
## ＜今年も開催「学内でOB訪問」＞

昨年の復活に引き続き、経済学部就職支援活動「学内OB訪問」が7月15日（金）に山の畑キャンパス学生会館大ホールで開催されました。業務多忙の中、夕方の開催にもかかわらず、瑞山会OBである卒業生達がメーカー、銀行、商社、建設業界などの分野から出席し、3年生の学生は41名の参加でした。

学生諸君はリラックスした雰囲気の中で、先輩にいろいろな質問を熱心にし、目前に迫った就職活動にむけて非常に有意義な会になったようです。大学では学生の就職支援についていろいろな活動を計画しており、瑞山会としても大学と連携し、いろいろな支援を行っていききたいと考えています。

先輩諸氏のアドバイスは力強い支援です。後輩のために皆さんのご協力をいただければと思います。

今後就職支援活動にご協力いただける方は、同窓会または学部事務室までご連絡をお願いいたします。



## 編集部後記

今年地元愛知は万博の話題で盛り上がりましたが、会員の皆さんは一年を振り返ってどうでしたでしょうか。

内藤教授の寄稿文にもありましたが、瑞山会会員もいよいよタイヤを迎える世代が出る時代に入ります。同窓会がさらにリタイア後の会員同士の交流の情報提供の場や、きっかけの一助となる活動も地道に続けていきたいと考えており、会報や同窓会ホームページの制作をしていく所存です。皆さんからの様々な情報を募集しています。旧友同士での集いの話題や、勿論ゼミ、クラブ等の同窓会の開催情報や報告記事、近況や寄稿文、趣味の写真等々、会報や同窓会サイトで他の会員の方にもお知らせできます。郵送、電子メールとも下記のアドレスまでお送りください。

（編集部兼同窓会サイト管理者 服部篤典 18期生）

### 原稿送付先

瑞山会会報編集部 中村 英利

郵送 〒454-0927

名古屋市市中川区打中1-200

電子メール Firinaka@aol.com

## 事業部便り

平成17年4月3日山崎川花見散策と茶会が名市大薬学部同窓会館薬友会館を利用して行われました。今年は桜の開花にはまだ早くほんのちらほら程度でした。4月16日には第45回OBゴルフコンペが葵CCにて行われました。優勝は松林昌和氏（25期生）、準優勝は伴野慶三氏（16期生）でした。5月3日には硬式テニスの会が行われました。昨年雨のため開催中止となり第15回となります。晴天に恵まれ暑い日の熱戦となりました。くじ引きで組み合わせたにもかかわらず杉浦晴義氏（5期生）夫妻がペアとなりまたも優勝をさらいました。9月4日は名市大キャンパス内にてバーベキュー大会が行われました。例年たくさんの銀杏の実をつけるいちょうの枝がぱっとりと切られほとんどなくなってしまい楽しみな収穫とはなりません。10月22日には葵CCにて第46回OBゴルフコンペが開催されました。優勝は伴野慶三氏（16期生）、準優勝小坂井啓次氏（7期生）でした。今年のゴルフは若い世代の躍進が目立ち、一番大勢参加しているはずの一期生の優勝者はいませんでした。次回開催は来春4月15日の予定です。奮ってのご参加をお待ちしています。



テニス大会参加者の皆さん（5月3日）

事業部へのご意見ご要望等ありましたらお気軽にご連絡ください。

事業部長 逸見和弘

TEL 052-914-6221 E-mail:hem3@r3.dion.ne.jp

## 瑞山会年間行事案内（平成18年）

4月2日（日）山崎川花見と茶会（薬友会館喫茶室を休憩所解放します）

12日（土）OBゴルフコンペ

5月3日（祝日）硬式テニス大会（山の畑キャンパスにて）

9月3日（日）野外バーベキューの集い

その他

9月 通常総会（兼代議員会）

年3～4回 理事会

12月 瑞山会報発行

◆行事の日程等は変更することがありますのでその都度事業部にご確認ください。

◆同窓会サイト内「瑞山会催し案内」ページで、変更事項も含め最新情報をお伝えしています。